

花 信

Kashin: The Shinshu University Library Bulletin

第4号 1998.10

目 次

附属図書館のより一層のご利用を ……	1	図書館情報大学教授石井啓豊氏 講演会開催 ……	6
文献の収集と活用 ……	2	「目録システム地域講習会・ ILLシステム地域講習会」W開催 ……	6
Web版「図書購入・文献複写・ 相互貸借申込システム」について ……	3	分館の現況 ……	8
雑誌目次情報提供システム 「SwetScan」の導入について ……	5	業務日誌 ……	9
自己点検・評価報告書を刊行 ……	5	運営委員会名簿 ……	10
立命館大学総合情報センター次長 郷端清人氏講演会開催 ……	5	人事異動 ……	11
		編集後記 ……	12

附属図書館のより一層のご利用を

附属図書館長 野村 俊 明

図書館は情報を提供する機関として存在しているが、現在は冊子体資料に加えて、電子体資料が出てきている。このためこれらの資料を保管するとともに、冊子体及び電子体資料から利用者が欲する資料をすばやく検索し、提供することができシステムの整備がますます必要になってきている。更に、冊子体資料の電子化と、それによる学内外への情報発信も求められている。また、利用者は、学内にとどまらず、他大学及び一般市民が対象にもなっている。信州大学附属図書館もこれらの要求に応えられるよう努力中である。

図書館は研究図書館であると同時に学習図書館でもある。前者は電子体資料が大いに有用で、検索などにより資料がすばやく入手でき、研究の発展のために役立つ。これらについても一部の方々は大いに活用しているが、私を含め多くの方々にとっては取っつきにくく避けているらしいがある。附属図書館はそのような方々に検索の仕方などについてお手伝いしますので、図書館職員にご相談のうえご利用ください。学習図書館の機能は、その目的が研究、学習あるいはそれら以外にあるかは別として、日頃の生活をより充実したものにし

てくれる。図書館は単に本にとらめっこをするところではなく、生活を楽しくするところでもあると思う。このような機能を十分に発揮するためには、豊富な電子体及び冊子体資料が必要である。信州大学附属図書館には本が少なすぎるし、あっても古すぎるとの声を、耳にたこができるほど聞いている。確かに冊子体資料が少なすぎる。しかし、具体的な要望となると今少しである。それは実際に附属図書館を利用する方々が少ないためであろう。

図書館はサービス機関である。お客様あって初めて成り立つ機関である。みなさんの研究や学習に附属図書館がお手伝いできれば本望である。附属図書館を毛嫌いせずにどんどん立ち寄って利用し、不満をぶつけてほしい。不満があったら足を遠ざけるのではなく、不満をぶちまけて、みなさんのよりよい図書館、すなわち、研究と教育を着実に遂行し飛躍を目指している信州大学にふさわしい附属図書館にしてください。附属図書館のより一層のご利用をお待ちしています。

(のむら としあき)

「文献の収集と活用」

中 嶋 聞 多

今年度から、共通教育のカリキュラムが一新され、これまでにないユニークな科目が数多く加わることになった。それらのなかに、「文献の収集と活用」といういささか地味な題目の授業が、前期に開講されていたことをご存じであろうか。実はこの授業は、信大で初めてというばかりでなく、全国でもたいへんめずらしい試みだったのである。以下、その内容について簡単に紹介しよう。

この授業のねらいは、これまで本学では体系的におこなわれてこなかった文献利用教育を、情報処理演習などとならぶ情報リタラシー教育の一貫として位置づけ、図書館の組織的な協力のもとに実施する点にあった。“情報リタラシー教育”と“図書館の組織的な協力”の2つがポイントである。

高校までの受け身の授業とは異なり、大学では学生は、自ら調べ、まとめることが要求される。しかし、広大な知識世界から、自分の必要とする情報や文献を集めるのは、実はそれほどたやすいことではない。ナビゲーションとなる知識や技能の有無が探索結果を大きく左右することになる。これまで、こうした知識は、専門が進むにつれて、教官や先輩から直接指導を受けるか、あるいはみようみまねで自然と身につけるかのどちらかであった。しかしこのようなやり方では、専門以外の領域は視界の外となる。アカデミズムの学際化が進むなか、それぞれの専門分野にわけける前に、体系的な知識や技能を習得しておくことは将来、必ず役立つはずである。

つぎに図書館の組織的協力の必要性について。通常、どこの大学図書館でも、新入生むけのオリエンテーションはおこなっている。しかしその内容は、どうしても通り一遍のものにならざるをえない。図書館行事の一つという形で実施するのは限界があるのである。やはり文献利用教育は、正規のカリキュラムに組み込んで実施することが望ましい。しかもこの場合、教材のほとんどが図書館にあるわけだから、それらを日頃管理し、熟知している図書館の協力は不可欠となる。この協力は、有志によるボランティアとしてではなく、

利用者教育という図書館の重要な業務の一部としておこなわれなければ、じつのあるものとはならないであろう。

われわれは、こうした考えを具体化するために、授業を、講義、解説、演習の3つの柱で構成することにした。講義は、学術情報論に相当する内容となっており、自然・社会・人文科学それぞれの学術情報の生産と流通プロセスについて概観するものである。解説では、主として本学図書館の参考資料ならびに各種の情報検索システム(OPAC、NACSIS-IR、FirstSearch、日経テレコン、インターネットのサーチエンジンなど)の利用法に焦点をあてた。そして演習では、数人のグループに別れ、提示された課題に対し、前述の資料や検索システムを用いて文献調査をおこなうことにした。これら授業全体を通して、講義ならびに全体のコーディネートは教官が、解説と演習は教官と図書館が協力してあたった。

さて、結果はどうだったか。手元に、受講生諸君が書いてくれた感想文がある。これらを読む限り、おおむね好評だったので正直ほっとしているところである。特に受講生の多くが、この授業の意義を理解し、積極的に知識を吸収しようという姿勢を示してくれたことはなによりうれしかった。反面、授業のすすめ方については、厳しい注文もつき、反省すべき点が数多くある。たとえば、われわれ自身も感じていたことだが、半期科目という制約から、1回あたりの知識量が多くなりすぎ、いささか消化不良に陥ったこと、演習では、投入したマンパワーの割に十分な効果をあげられなかったことなどが問題点として浮かびあがった。

このように、問題は山積するものの、なんとかか第一歩は踏み出すことができた。私としては、今後も図書館と協力しながら、「文献の収集と活用」を本学の特徴ある授業の一つに育てたいと考えている。関係方面のご理解とご支援を切に願うものである。

(人文学部助教授 なかじま もんた)

Web版「図書購入・文献複写・相互貸借申込システム」について

これまで「図書の購入・文献複写・相互貸借」は、所定の申込用紙により図書館へ提出いただいておりましたが、これらの依頼をWWWの画面から申し込むことができるサービスを、平成10年7月から実施していますのでご利用ください。

システムの概要

- (1) 利用対象は、本学教職員に限ります。
- (2) 最初に、「附属図書館ホームページ」あるいは運用中の「各分館のホームページ」(注) から本システムの「利用申込書」へ入力し、利用を承諾を受けてください。
- (3) 図書購入・文献複写・相互貸借を申し込むには、次の2つの方法があります。
 - a. 「OPACの詳細画面」から、求める図書・雑誌データを流用コピーする。
 - b. 「Web-cat」など学外のデータベースから、求める図書・雑誌を流用コピーする。
 依頼する情報が手元にある場合や、求める図書・雑誌が見つからない場合などは、白紙の申込書へ直接入力できます。

(4) 申込者は、依頼した図書や文献が、どのような処理状態にあるかを随時確認することができます。

購入申込図書の受入・品切や依頼文献の入手・謝絶などの情報は、その都度図書館から電子メールで申込者へ通知いたします。このため、本システムを利用される場合は、インターネットのWWWブラウザ(Explorer v.3、Netscape v.3以上を推奨)と電子メールを使用できることが前提となります。

(注)

平成10年10月現在、システムを運用しているところは、中央館のほか教育学部分館・工学部分館・繊維学部分館・医療短大図書室です。なお、医学部分館・農学部分館も近日中に実施予定です。

本システムでの不明な点やご意見などにつきましては、下記へお問い合わせください。

1. 利用申請の方法

「附属図書館ホームページ」で、「申込システム申請」をクリックします。次画面で、「システムの利用を申請する」をクリックすると「利用申込

〈問い合わせ先〉

利用申請、システム運用などは	中央館：資料サービス係 内線：2496 教育学部：教育学情報係 内線：282・283 工学部：工学情報係 内線：2141(城倉、滝口) 繊維学部：繊維学情報係 内線：5015 医療短大：図書室 内線：3520
図書購入については	中央館：図書情報係 内線：2295・2494 教育学部：教育学情報係 内線：282 工学部：工学情報係 内線：2141(滝口) 繊維学部：繊維学情報係 内線：5016 医療短大：図書室 内線：3520
文献複写・現物貸借については	中央館：学術情報係 内線：2296 教育学部：教育学情報係 内線：283 工学部：工学情報係 内線：2141(樋口) 繊維学部：繊維学情報係 内線：5015 医療短大：図書室 内線：3520

書」が表示されます。この「申込書」へ必要事項を入力して「実行」ボタンをクリックしてください。

図書館で受付後、「申込ID」「パスワード」を記載した利用承認の電子メールをお送りします。この「利用者ID」は、図書購入・文献複写・相互貸借の申込とも共通のIDとなります。また、希望する「パスワード」を入力する場合は、トラブルを防ぐため最低6字の英数字(1バイト)をお書きください。

2. 図書購入・文献複写・相互貸借の申込方法

この申込システムは、基本的に本学「OPAC」あるいは「Web-cat」(NACSIS)や「新刊書籍検索」(図書館流通センター)などのデータベースを検索し、該当するデータを申込書へ流用コピーして使用します。また、申込の情報源が手元があれば、直接白紙の申込書へ入力して依頼することもできます。

申込書には「利用者ID」「パスワード」を設定します。「利用者ID」は、プルダウンメニューから本人を選択し、「パスワード」を入力します。

(1) OPAC検索から

①図書購入・現物貸借を申込み場合

OPAC初期メニューで、検索対象資料を「和図書」あるいは「洋雑誌」として選択します。

図書購入の場合は、検索した該当資料の「詳細表示」画面の下にある「文献複写申込」ボタンをクリックします。実行すると、該当資料のタイトル等の情報が申込書欄へ埋め込まれます。ただし、雑誌論文は、巻号・出版年・著者・論題・頁などを記入いただく必要があります。これらを確認のうえで、「図書購入」ボタンあるいは「相互貸借」ボタンを押せば依頼完了です。

②文献複写を申込み場合

OPAC初期メニューで、検索対象資料を「和雑誌」あるいは「洋雑誌」として選択します。

文献複写の場合は、検索した該当資料の「詳細表示」画面の下にある「文献複写申込」ボタンをクリックします。実行すると、該当資料のタイトル等の情報が申込書欄へ埋め込まれます。ただし、雑誌論文は、巻号出版年・著者・論題・頁などを記入いただく必要があります。これらを確認のうえで、「実行」ボタンを押せば依頼完了です。

(2) OPAC以外のデータベース検索から

求める資料の所蔵がOPACに無くても、タイトルなどの書誌情報を流用コピーし「申込書」を作成できます。「Web-cat」(NACSIS)は、図書・雑誌の検索が「新刊書籍検索」(図書館流通センター)は、新刊図書の検索ができます。

該当資料の書誌事項をコピー&ペーストして「申込書(空白)」を開き、貼り付けることによって依頼します。

(3) 手元に申込の情報源がある場合

「申込書(空白)」を開き、各項目へ入力して依頼します。ただし、雑誌タイトルなどは、できる限りフルスペルで入力してください。

3. 図書購入・文献複写・現物貸借の処理状態と確認

「附属図書館ホームページ」あるいは運用中の「分館ホームページ」にある申込のページから「処理状態の確認」をクリックし、①利用者IDの選択②パスワードの入力③処理状態の選択によって、処理状態を随時確認することができます。

(1) 処理状態の内容と表示

①申込者からの各種申込を図書館で受けけると処理状態は「受付」となります。

②「図書購入」の場合は、現物を図書館が受入完了した時点で「貸出可」となります。

③「文献複写」の場合は、他館へ依頼すると「処理中」となり、処理が完了すれば「引渡」となります。

④「現物貸借」の場合は、依頼図書館から現物を受けた時点で「到着」となり返却されれば「返却」となります。

なお、各種申込において「受付」「到着」「謝絶」となった場合は、図書館から申込者へメールで連絡いたします。

(2) 処理状態の確認について

申込者は、「処理状態の確認」をクリックすることによって、申込依頼の処理状態を随時確認することができます。申込種別を選んで申込一覧画面から、①「利用者ID」の選択 ②「パスワード」の入力 ③「処理状態」を指定して「実行」するとデータの一覧が表示されます。なお、状態の選択で「全状態」を指定すればすべての状態のデータを一覧することができます。

(資料サービス係)

雑誌目次情報提供システム 「SwetScan」の導入について

平成11年1月から新たな雑誌目次情報提供システムをサービスすることにしました。このシステムはオランダにある「Swets社」が作成している新着雑誌の目次データをインターネットを通じて取り寄せ、信大図書館のサーバ上に構築した検索システムにより全学に提供するものです。主な機能は以下のとおりです。

- 1) 約14,000タイトルの外国雑誌目次情報を検索できる。論題や著者から検索できるほか、新着(刊)雑誌の目次を一覧表示させる目次検索なども可能です。
- 2) キーワード(検索式)を登録しておけば、データが更新(毎日)される都度、登録されている検索式にもとづいて自動的に検索が実行され、ヒットした目次情報(著者名、論題、書誌事項=雑誌名、ページなど)が電子メールで届けられる。同一テーマであれば、以後、同じ検索を繰り返す必要はない。検索式は複

数登録が可能です。

- 3) 検索結果を利用してパソコンの画面から文献複写申し込みを行うことができる。(上記2)の結果を利用することもできます。)
 - 4) インターネットで公開されている雑誌(full text)にリンクする機能がある。
 - 5) 各論文のabstractsについては、別途データを購入すれば検索対象とすることができる。(本学サーバのHD上データを利用します。)
- 利用開始日がはっきりした時点で、改めてご案内いたします。サービス内容などについての詳細は情報サービス課資料サービス係(内線2496)へお問い合わせください。

なお、平成8年度から図書館の「CD-ROMサーバシステム」で提供しておりました「Current Contents」は、平成10年いっぱい提供を中止することになりました。

(資料サービス係)

自己点検・評価報告書を刊行

附属図書館では、このほど自己点検・評価報告書を刊行しました。附属図書館では、これまで大学で出される報告書の一項目として自己点検・評価報告を載せることがあっても、図書館独自の報告書として刊行するのは初めてのことです。報告書は、附属図書館自己点検・評価実施委員会における審議を経てとりまとめられたものです。報告書は、附属図書館の現状や課題、教官を対象に実

施したアンケートの結果などから構成され、図書館統計に基づいた附属図書館の実態やアンケート調査の結果明らかになった教官の図書館利用の実態、図書館に対する意見などのまとめであり、今後における図書館サービスの具体的な改善に向けての基礎資料となるものです。教官各位にはそれぞれ1部ずつ配布しましたのでご覧ください。お願いいたします。(情報管理課)

立命館大学総合情報センター次長 郷端清人氏講演会開催

平成10年2月23日(月)14時~17時、信州大学旭会館大会議室において、立命館大学総合情報センター次長の郷端清人氏を講師にお迎えし、『大学における情報化の現状と将来—立命館大学における情報化への取り組みの現状とその成果—』と題し、講演会を開催しました。

郷端氏は、立命館大学全体の情報化の経緯や、ネットワークなどを利用した図書館業務の情報化

について講演されました。

また、講演会に続いて、パネル討論『大学における情報化の現状と将来』を行ないました。

中嶋聞多氏(人文学部助教授)をコーディネーターに、郷端清人氏(立命館大学総合情報センター次長)、浅川千秋氏(経理部情報企画室長)、茅野基氏(総合情報処理センター)、濱崎修一氏(附属図書館情報サービス課長)をパネリストに迎え、信州大学の現在と将来の情報化について活発な討論が行なわれました。

(情報サービス課)

図書館情報大学教授 石井啓豊氏講演会開催

『電子化時代の図書館サービス—現状と将来—』
平成10年3月9日（月）15時～17時、信州大学
TV会議システム（SUNS）を使用して、図書館
情報大学教授の石井啓豊氏を講師にお迎えし、講

演会を開催しました。

石井氏は、電子図書館の関連領域（情報の生産・出版など）の現状を紹介し、これからの図書館経営戦略や、図書館サービスのあり方について講演されました。

（情報サービス課）

「目録システム地域講習会・ ILLシステム地域講習会」W開催

学術情報センター、信州大学附属図書館共催の「目録システム地域講習会」を、7月22日～24日の3日間、信州大学附属図書館会議室にて行いました。

講師は、学術情報センター（目録情報課 酒井課長補佐）、本学図書館職員3名、山梨大学1名が担当し、信州大学8名、上越教育大学、山梨大学各1名の合計10名が受講しました。

翌週、7月30、31日の2日間、同共催による「ILLシステム地域講習会」を、本学として、初めて開催しました。講師は本学図書館職員3名が担当し、信州大学7名、上越教育大学、富山県立大学、新潟産業大学、国際交流基金関西国際センター各1名の11名が受講しました。

（情報管理課）

お 知 ら せ

平成9年度冬季遡及入力実施結果報告

	冊 数	対 象 分 野
中 央 館	9,681	哲学：4,383冊、歴史：4,493冊、その他：805冊
教育学部分館	2,190	全て教育学
医学部分館	1,949	全て自然科学
工学部分館	3,038	全て工学
農学部分館	963	全て自然科学
繊維学部分館	384	全て自然科学
医短図書室	468	全て医学
合 計	18,673	

本学関係（者）著作寄贈図書一覧 （平成10年1月～10年9月）

ここには本学関係者が著作・編集・刊行等に関係した図書で、図書館に寄贈された分を掲載しています。御寄贈ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
* 中央館				
セピア色の空白	同学社	1997	山下利昭	
資本主義の核心	世界書院	1997	永谷清	経済学部
みぢかな物理	学術図書出版	1998	吉江寛	理学部
改訳版 プルースト(サミュエル・ベケット著)	せりか書房	1993	大貫三郎(訳)	名誉教授
ハーディ詩集	思潮社	1997	大貫三郎(編)	名誉教授
楽譜「野ばら」91曲集(坂西八郎編)	岩崎芸術社	1997	びわ野ばら新委員会	元人文学部
スポーツ・レジャー社会学	道和書院	1995	橋本純一	人文学部
近代日本語の研究	東宛社	1998	京極興一	名誉教授
感性工学への招待	森北出版	1996	篠原 昭 清水義雄 坂本 博	繊維学部
肝臓を怒らせないために	信濃毎日新聞社	1997	大橋俊夫 川崎誠治 清澤研道	医学部
微笑みの中で	じゃこめてい出版	1998	奥寺 敬	医学部
* 教育学部分館				
地中海という広場	淡交社	1998	齋藤寛海	教育学部
Intergenerational Programs Support for Children, Youth, and Elders in Japan	State Uni. of New York Press		草野篤子	教育学部
近代日本語の研究—表記と表現—	東宛社	1998	京極興一	教育学部
微笑みの中で	じゃこめてい出版	1998	奥寺 敬	医学部
* 医学部分館				
CD-ROMで診る循環器疾患ケーススタディ	羊土社	1998	磯部光章	医学部
微笑みの中で	じゃこめてい出版	1998	奥寺 敬	医学部
* 工学部分館				
微笑みの中で	じゃこめてい出版	1998	奥寺 敬	医学部
* 農学部分館				
句集 秋蝉	俳誌みすゞ発行所	1997	青柳花泉	元農学部
Current Advances in Buckwheat Research. Vol.1-3	Shinshu University	1995	侯野敏子 氏原暉男	名誉教授 農学部
1993年の異常気象による水稲不作の 実態と栽培技術上の問題点の解明 (文部省科学研究費(No.06304012), 総合研究(A)研究成果報告)	津野幸人	1995	侯野敏子	名誉教授
ソバの研究:最新の進歩 第6回ソバシンポジウム要録集	信州大学出版懇談会	1998	氏原暉男 侯野敏子	農学部 名誉教授
微笑みの中で	じゃこめてい出版	1998	奥寺 敬	医学部
写文集誘惑:伊那谷の自然・ いのちのメッセージ	編集工房森樹	1998	建石繁明	農学部
* 繊維学部分館				
微笑みの中で	じゃこめてい出版	1998	奥寺 敬	医学部

分館の現況：初めてのオリエンテーションを実施して

農学部分館

平成10年5月21日、22日に農学部分館としては初めての図書館オリエンテーション(利用者ガイダンス)を実施しました。当分館では教職員に対して、平成5年に学術情報センターから利用者番号、パスワードを借りてNACSIS-IR利用説明会を、平成8年に信州大学CD-ROMデータベース研修会を実施しましたが、図書館のオリエンテーションは初めての企画でした。既に数年前から実施している繊維学部分館や中央館の実施内容を参考に、特にインターネットを利用した情報検索方法の実習に重点をおき、PC端末40数台が配置されている情報端末室を借用して行いました。情報処理委員教官の御配慮で学内LAN用に今回のみIDも発行していただきました。

以下にその概略を報告します。

(1) 出席人数21日(学生12名、教官3名)、22日(学生27名)

(2) 内容等

①対象者 研修室所属教職員 ②農学分館での資料の探し方(図書、雑誌、論文) ③図書館の各種サービスの紹介 ④信州大学内情報検索[OPAC、CD-ROMデータベース(Current Contents、雑誌記事索引)] ⑤外部機関情報検索[NACSIS Webcat、AGRIS、JASI、infoseek(サーチエンジン)]、無料公開MEDLINE、Uncover)

(3) 反省等

①授業時間と重なったため受講者が少なかった。(1回30名程度を想定していた)
②今後は受講対象者に対応した内容にして行った方が良い。(学生部、大学院生、教職員等)
③受講者からは説明がわかりやすく、実習が有意義であったとの感想があり館員にとって大変励みとなった。

インターネットの情報伝達に地域差は存在しないといわれています。蔵書も少なく、資料購入費の少ない地方大学にとってインターネット等で得られる情報は貴重です。外国雑誌の高騰の中で益々その効果的利用が求められています。今回のオリエンテーションに際しては、無料公開データベー

スを当図書館ホームページに「農学部からの情報検索」としてリンクしたものばかりでなく、図書館員が実際にアクセスして簡易マニュアルを作成しました。今後も有用なホームページはリンクして必要に応じてマニュアル等を作成していきたいと思っておりますので、良い情報があったらお教え下さい。

今回の内容は利用者が自ら、知りたい情報を得るための最小限の知識でしたが、これだけでかなりの情報が得られます。当図書館でもレファレンス業務に利用して効力を発揮しています。書誌不明確でこれまで入手不可であった文献もわかる範囲の著者、出版社、キーワードでinfoseek等で検索し原報入手の情報を得ています。その情報により海外に電子メールでレファレンス依頼することも可能です。

窓口でも、先生方に無料公開MEDLINEを、Webcatの英語版を留学生に紹介して喜んでいただきました。

今後もできるだけ図書館オリエンテーションを実施して行きたいと思っておりますが、研究室主催のオリエンテーションに利用していただいたり、情報検索として学部の講義に取り入れていただければ、より周知され利用していただけるのではないかと考えています。

今回は初めての企画でしたので資料作成に想像以上の時間を費やしてしまい、日常業務をこなしながらの作業は大変な労力を用いましたが、形式を決めて館員で分担作成することにより、全24ページの資料が作成できました。この資料を元に機会がある毎に修正して、いつでも最新のオリエンテーションが実施できるようにして行きたいと思っております。

また当日の資料をホームページに掲載する予定でしたが、画像情報が多く掲載できなかった事をお詫び致します。

参照URL

信州大学農学部図書館ホームページ

<http://karamatsu.shinshu-u.ac.jp/nougakubu/library/index.html>

業務日誌

平成10年

- 3月3日 (学術情報センター) 電子図書館サービス利用説明会(各大図/学術情報係:金井)
- 3月3-4日 目録システム地域講習会担当者連絡会議(学術情報センター/図書情報係:石坂)
- 3月9日 平成9年度第3回附属図書館講演会(SUNS使用)
講師:図書館情報大学 石井啓豊教授
- 3月10日 新CAT/ILLシステム説明会(東京医歯大/図書情報係:石坂)
- 3月12日 丸善電子ジャーナルセミナー(八王子/雑誌情報係:杉本)
- 3月13日 目録担当者実務研修会(第6回 中央館)
- 3月17日 大学図書館の電子図書館化推進連絡会議(学術情報センター/情報サービス課長)
- 4月9-13日 平成10年度新入生等図書館ガイダンス実施(中央館)
- 4月9-27日 平成10年度図書館オリエンテーション実施(繊維学部分館)
- 4月23-24日 第49回北信越地区国立大学図書館協議会(福井市/館長、部長、管理課長)
- 5月21-22日 平成10年度図書館オリエンテーション実施(農学部分館)
- 5月26日 平成10年度国立大学附属図書館事務部課長会議
(東京都/部長、管理課長、サービス課長)
- 6月2日 附属図書館自己点検・評価実施委員会(SUNS使用)
- 6月3-4日 平成10年度附属図書館初任者研修(中央館)
- 6月16日 全学図書関係係長会議(平成10年度第1回)
- 6月18日 附属図書館運営委員会(平成10年度第1回 SUNS使用)
- 6月24-25日 第45回国立大学図書館協議会総会(鹿児島市/館長、部長、サービス課長)
- 7月1日 メールによる各種申込システム説明会(各館室担当職員対象)
- 7月8日 附属図書館自己点検・評価実施委員会(SUNS使用)
- 7月13日 全学図書関係係長会議(平成10年度第2回 SUNS使用)
- 7月22-24日 学術情報センター・信州大学共催平成10年度目録システム地域講習会(図書コース)
(中央館/図書情報係:川西、雑誌情報係:塚田、資料サービス係:田村、中沢、工学情報係:滝口、繊維学情報係:斎藤、人文学部・経済学部:伊藤、医療短大:小林及び学外者2名)
- 7月23日 附属図書館運営委員会(平成10年度第2回 SUNS使用)
- 7月30-31日 学術情報センター・信州大学共催平成10年度ILLシステム地域講習会(中央館/資料サービス係:中沢、学術情報係:後藤、有坂、教育学情報係:瀬尾、春原、医学情報係:宮坂、繊維学情報係:中村及び学外者4名)
- 8月17-21日 第2回情報ネットワーク担当職員研修(ネットワーク管理I)
(学術情報センター/資料サービス係:桃井)
- 8月20日 電子図書館機能検討ワーキンググループ(第3回 SUNS使用)
- 8月20日 附属図書館収書委員会(SUNS使用)
- 8月20日 附属図書館事務改善実施委員会(平成10年度第1回SUNS使用)
- 9月4日 附属図書館防災訓練
- 9月28日 附属図書館事務改善実施委員会(平成10年度第2回)


附属図書館運営委員会名簿

(平成10年10月16日現在)

部 局	官 職	氏 名	任 期	収書委員	備 考
附属図書館	附属図書館長	野村俊明	10. 8. 1~12. 7.31	○	
人文学部	助 教 授	中嶋聞多	10. 5. 1~12. 4.30		
	助 教 授	佐倉由泰	10. 4. 1~12. 3.31	○	
教育学部	分館長	馬場将光	10. 4. 1~12. 3.31	○	
	教 授	松岡 樂	10. 4. 2~12. 4. 1		
経済学部	教 授	青才高志	9. 5. 1~12. 4.30		
	助 教 授	柳町晴美	10. 5. 1~12. 4.30	○	
理学部	助 教 授	松田智充	10. 5. 1~12. 4.30	○	
	助 教 授	竹下 徹	8.12.16~10.12.15		
医学部	分館長	福島弘文	9. 4.10~11. 4. 9	○	
	教 授	村瀬澄夫	10. 6. 1~11. 5.31		
工学部	分館長	田坂雅保	10.10.16~12.10.15	○	
	教 授	田中道彦	9.10.31~11.10.30		
農学部	分館長	太田克明	10. 4. 1~12. 3.31	○	
	教 授	柴田久夫	10. 4. 1~12. 3.31		
繊維学部	分館長	中沢 賢	10. 4. 1~12. 3.31		
	助 教 授	小西 哉	9.11. 1~11.10.31	○	
事務局	事務局長	渡部 蒨	8. 7. 1~		

オブザーバー

医療短大	助 教 授	川上由行	9. 4. 1~		
------	-------	------	----------	--	--

▶ 人 事 異 動

3月31日 退職

篠田 修 (情報管理課図書館専門員)
 浅輪 達夫 (情報サービス課資料サービス係長)
 宮原 邦夫 (教育学部分館教育学情報係長)
 網野 政子 (農学部分館農学情報系主任)

3月31日 辞職

達家 明子 (教育学部分館教育学情報係)

4月1日 転入

情報管理課長	重里 信一 (富山大学附属図書館情報サービス課長)
情報管理課総務係長	佐々木善久 (医学部学務課学事係長)
情報管理課雑誌情報係長	原山 秀昭 (長野工業高等専門学校庶務課図書係長)
情報サービス課資料サービス係長	桃井 栄一 (山梨大学附属図書館資料受入係長)
医学部分館医学情報係長	内海 広 (山梨医科大学教務部図書課情報管理係長)
医学部分館医学情報系主任	宮坂 政子 (医学部医事課)
情報管理課図書情報係	川西 玲子 (新規採用)
医学部分館医学情報係	岡 順子 (長野工業高等専門学校庶務課)
工学部分館工学情報係	滝口 智子 (新規採用)
農学部分館農学情報係	鈴木 史子 (東京大学教養学部図書課)
繊維学部分館繊維学情報係	大槻 修子 (繊維学部)
教育学部分館教育学情報係事務補佐員	徳永 順子 (新規採用)

4月1日 転出

医療技術短期大学部事務長	青木 道雄 (情報管理課長)
国立信州高遠少年自然の家庶務課会計係長	原 茂 (情報管理課総務係長)
山梨大学附属図書館整理係長	手塚 久盛 (情報管理課雑誌情報係)
山梨医科大学教務部図書課情報管理係長	折井 匡 (情報サービス課学術情報係)
長野工業高等専門学校庶務課図書係長	伊藤 和子 (工学部分館工学情報係)
金沢大学附属図書館情報管理課	押見 智美 (教育学部分館教育学情報係)
長野工業高等専門学校庶務課	渡邊 彰宏 (医学部分館医学情報係)
工学部	牧野美津貴 (工学部分館工学情報係)
繊維学部	濱 光子 (繊維学部分館繊維学情報係)

4月1日 館内異動

情報管理課図書館専門員	金井 忠彦 (情報サービス課学術情報係長)
情報サービス課学術情報係長	淵井 正文 (医学部分館医学情報係長)
教育学部分館教育学情報係長	北澤 文男 (繊維学部分館繊維学情報係長)
工学部分館工学情報係長	杉本 詔守 (情報管理課雑誌情報係長)
繊維学部分館繊維学情報係長	峯村 武 (工学部分館工学情報係長)
情報管理課雑誌情報係	石坂 憲司 (情報管理課図書情報係)
教育学部分館教育学情報係	春原 幸江 (医学部分館医学情報係)
情報管理課総務係事務補佐員	塚田 理絵 (情報管理課雑誌情報係事務補佐員)
情報サービス課学術情報係事務補佐員	後藤 優子 (情報サービス課資料サービス係事務補佐員)

情報サービス課学術情報係事務補佐員 有坂 里佳(情報管理課総務係事務補佐員)

4月30日 辞職

高見 かおり(農学部分館農学情報係事務補佐員)

5月7日 育児休業(平成11年5月6日まで)

繊維学部分館繊維学情報係 鳴澤 直子

5月7日 臨時任用(平成11年5月6日まで)

繊維学部分館繊維学情報係 斎藤 晶

5月16日 採用

農学部分館農学情報係事務補佐員 田中 美紀

7月31日 任期満了 田巻 義孝(館長)

8月1日 館長 野村 俊明(理学部教授・併任)

10月1日 転入 情報サービス課長 菅原 英一(北海道大学情報サービス課図書館専門員)

10月1日 転出 熊本大学附属図書館情報サービス課長 濱崎 修一(情報サービス課長)

編集後記

・「花信」第4号をお届けします。本号ではメールを使ったサービスや共通教育の授業支援など新しい試みを紹介しました。

・近年、全国の大学図書館では、「電子図書館」をキーワードにサービスの高度化をめざしてさまざまな取り組みを行っています。「電子図書館」の定義は必ずしも明確ではないようですが、少なくともコンピュータと通信ネットワークの活用を前提にしていることははっきりしています。情報機器を駆使することによって、「知の宝庫である図書館を自らの書斎(研究室)に！」を可能にしてしまおうというわけです。このような機能は、キャンパスが分散し国立大学中もっとも分館の数が多い信州大学にとって他大学に増して必要度は高いものと言えます。わが信大でもここ数年来、関連システムの整備を始めとして、目録情報の遡及入力、貴重資料の画像入力、電子メディアの収

集提供などに取り組んできました。

・しかしながら、図書館機能のすべてが電子化されることはありえないでしょう。これまでの「紙」の情報を対象にした業務を捨て去るわけにはいきませんし、さらに充実すべき点も多々あります。図書雑誌の購入事務、目録入力などの業務を遅滞なく処理しつつ、教育研究の高度化、多様化に対応できるサービスの向上に努める必要があると思われれます。それには、これまでの枠組みを越えた業務の見直しと改善は当然のことだと考えます。

・附属図書館では昨年来、中央館、各分館、医療短大図書室におけるすべての業務を対象に、もっとも効率的な業務処理とサービス向上を両立させる方法について検討を行っています。具体的な検討状況などについては、随時「花信」でも紹介する予定です。

花 信 第 4 号 1998年10月31日

■ 編集・発行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭4-1-1

TEL 0263 (37) 2174・FAX 0263 (33) 5833

E-mail: jja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp